

原子力発電技術フォーラム訪中団

期間:2011年6月26日(日)～7月2日(土) (7日間)

－ 参加者募集のご案内 －

主 催: 一般社団法人日本技術者連盟
国際原子力発電技術移転機構

後 援: 社団法人日本原子力産業協会
特定非営利活動法人日本保全学会

協 力: 日本テピア株式会社 日中経済・技術交流センター
総合事務局: 株式会社アジア技術移転機構(ATTO)
取扱旅行社: 万達旅運株式会社 ワンダートラベル

原子力発電技術フォーラム訪中団 参加のおすすめ

中国では積極的に原子力発電開発を進めていますが、人材の不足や原子力発電設備の製造能力、据付能力、研究開発・設計能力の不足を指摘する声があがってきています。こうした状況を踏まえ、本連盟では、2010年12月「原子力発電ビジネス訪中産業技術フォーラム」を中国に派遣致しました。

第2次訪中団として、中国核能行業協会と協力して、4月に深圳において「原子力発電技術フォーラム訪中団」を開催致す予定でありましたが、3月11日(金)に発生した東北地方太平洋沖地震と津波により、福島第一原子力発電所が甚大な被害を蒙りました。関係者におかれましては復興に向けて懸命な努力をされておられますが、一日も早く、収束を迎えることが出来ます様、祈念致し、諸般の事情を鑑み延期をさせて頂きました。

4月7日(木)中国核能行業協会の年会(理事会)において、張 華祝・理事長は、「福島の事故は世界の関心を集めた。中国でも、党中央ならびに国務院は原子力安全問題を非常に重視するに至った。今後、核能協会としても、原子力発電所の運転評価ならびに建設プロジェクトの評価を積極的に行う。また、技術者の養成・訓練、品質保証に留意しながら原子力安全の発展を促進する。福島の事故によって世界の原子力発電の発展がストップすることはあり得ない。今後とも、各国の同業者との協力・交流を強化していく」と語られました。

福島の事故については、世界各国、とりわけ原子力発電開発を積極的に推進する中国は、日本の現状に多大な関心を寄せております。一般社団法人日本技術者連盟国際原子力発電技術移転機構と致しましては、民間の立場からも正確な情報を中国側に伝え、経験を共有する必要があると考え、中国核能行業協会との共催により「原子力発電技術フォーラム訪中団」を派遣致すことになりました。

2011年6月27日(月)、28日(火)北京において「中日原子力発電技術フォーラム」を開催致します。同フォーラムを通じて、福島第一原子力発電所事故の状況ならびに日本の最新の技術・知見について紹介するだけでなく、中国の現状ならびに課題について発表を頂き日中間の交流を深めることは、原子力安全の確保に貢献することはもちろん、中国市場進出への足がかりになるものと期待されます。なお、フォーラム終了後には、中国のマスメディアとの記者会見が予定されています。



ご挨拶
佐々木 宜彦 氏
一般社団法人日本技術者連盟
国際原子力発電技術移転機構 委員長
(財団法人発電設備技術検査協会 理事長)

国際原子力発電技術移転機構が中心となり、国際的な原子力発電人材育成に加え、原子力発電プラント輸出戦略にも大きな影響を及ぼすことが確実な中国の原子力発電開発に焦点をあてた原子力発電技術フォーラムを中国で開催する事は日中双方にとって誠に時宜を得ていると思います。

本旨をご理解の上、関係者のご賛同を賜ります様
お願い申し上げます。



団長
榎本 聰明 氏
東京電力株式会社 顧問 工学博士
社団法人海外電力調査会 前会長

1965年 東京大学工学部原子力工学科卒業
1965年 東京電力株式会社入社
1983年 原子力建設部原子力計画課長
1984～1988年 東京大学工学部非常勤講師
1990～1991年 東京大学工学部非常勤講師
1995年 柏崎刈羽原子力発電所長
1997年 取締役原子力副本部長
1999年 常務取締役原子力本部長
2002年 取締役副社長(原子力本部長)
2004年 社団法人海外電力調査会会長 工学博士

訪問先概要 (予定)

① 広東核電集团有限公司 (深圳)

中国を代表する原子力発電事業者である。傘下に深圳中広核工程設計有限公司や中科華核電技術研究院有限公司等を抱えている。今回の訪問では、関連する傘下企業との意見交換も予定されている。

② 大亜湾原子力発電所

広東核電が所有する原子力発電所。深圳から車で1時間半程度の距離にある。

中日原子力発電技術フォーラム 技術発表テーマ募集内容

主 催: 中国核能行業協会

一般社団法人日本技術者連盟 国際原子力発電技術移転機

技術発表テーマ(予定)

技術フォーラムにて技術発表を希望される参加者は下記の発表募集テーマ一覧を参考にしてお申込下さい。
テキストの使用言語及び発表言語は日本語とします。質疑応答は日本語・中国語逐次通訳となります。

- | | |
|---|--------------------------|
| 1. 「一体型モジュラー軽水炉の原子炉・炉心設計」
あるいは「海水淡水化に用いる再利用型小型PWR」 | 6. 「日本の原子力発電所における経年劣化管理」 |
| 2. 「原子力級溶接材料」 | 7. 「原子力発電所の耐震性評価」 |
| 3. 「原子力発電所のデジタル計装制御」 | 8. 「日本における新型炉開発」 |
| 4. 「既設原子力発電所の中央制御盤等の総合デジタル方式への更新技術」 | 9. 「原子力発電所の先進的建設工法」 |
| 5. 「原子力安全システム研究所における高経年化対策研究」 | 10. 「4S炉」 |
| | 11. その他(ご発表希望のテーマ) |

中日原子力発電技術フォーラム 発表者留意事項

- ① 参加者の技術論文発表の時間は逐次通訳を含め、40分前後とします。
- ② 参加者の発表される技術論文の要約をA4サイズ1ページにまとめて頂き6月10日(金)までに総合事務局宛、電子ファイルでお送り下さい(要約は中国語に翻訳されます)。
- ③ 技術論文(フルペーパーは翻訳しません。(日本語・英語・中国語のいずれか提出された原文通り)6月15日(水)までに電子ファイルにて総合事務局宛にお送り下さい。(中国側で印刷の上、参加者に配布されます。)
- ④ 技術フォーラムにて使用されるプレゼン用のスライドは、事前に総合事務局まで電子ファイルにてお送り頂くと共に、各自ご持参して下さい。(発表会場には、パソコン、プロジェクタースクリーン等準備しています)
- ⑤ 今回の技術フォーラム当日の参加者は中国核能行業協会の関係する政府役人、団体会員、企業会員、個人会員、メディア関係者など多数出席の予定です。

原子力発電技術フォーラム訪中団 日程

日程：2011年6月26日(日)～7月2日(土)

※訪問先、発着時間、交通手段等は都合により変更する場合がございますので、予めご了承ください。
※飛行機はエコノミークラスを利用します。

日程	都市	交通	時間	スケジュール	宿泊ホテル	食事
6/26 (日)	東京(羽田)発 北京着	CA-182 専用バス	11:15 13:50 16:30	羽田空港中国国際航空カウンター前集合 搭乗手続き/結団式 中国国際航空にて北京へ 到着後、ホテルへ	首都大飯店 (キャピタル ホテル)	昼 機内食 夕 ○
6/27 (月)	北京滞在	専用バス	午前 午後	中日原子力発電技術フォーラム 福島セッション 記者会見	首都大飯店 (キャピタル ホテル)	朝 ホテル 昼 ○ 夕 ○
6/28 (火)	北京滞在	専用バス	終日	中日原子力発電技術フォーラム 技術発表セッション	首都大飯店 (キャピタル ホテル)	朝 ホテル 昼 ○ 夕 ○
6/29 (水)	北京発 深圳着	専用バス		移動	富臨大酒店 (フェリシティ ホテル)	朝 ホテル 昼 ○ 夕 ○
6/30 (木)	深圳滞在	専用バス	終日	中日原子力発電技術フォーラム 広東核電に於いて	富臨大酒店 (フェリシティ ホテル)	朝 ホテル 昼 ○ 夕 ○
7/1 (金)	深圳滞在	専用バス		大亜湾原子力発電所訪問	富臨大酒店 (フェリシティ ホテル)	朝 ホテル 昼 ○ 夕 ○
7/2 (土)	深圳発 東京(成田)着	CA-919	11:00 18:10	中国国際航空にて上海経由帰国の途へ 成田国際空港にて現地解散		朝 ホテル 昼 機内食

原子力発電技術フォーラム訪中団 募集要項

- 調査期間 : 2011年6月26日(日)～7月2日(土) 7日間
- 団長 : 榎本 聡明 氏
(東京電力株式会社 顧問、社団法人海外電力調査会 前会長)
- 通訳者(日⇄中) : ベテラン適任者
中国国内滞在中の全行程に同行致します。
- 添乗員 : 添乗員は全行程同行致します。
- 論文発表 : テキストの使用言語及び発表言語は日本語とします。
質疑応答は日本語・中国語逐次通訳となります。
- 参加費 : ￥630,000(消費税込)
※詳細は以下をご参照ください。
- ホテル : 原則的に一人部屋
- 募集人員 : 20名(最低人数15名)
- 申込締切 : 2011年6月10日(金)

参加費に含まれるもの

- 団体エコノミークラス航空運賃
- 燃油特別付加運賃、空港税等
- ホテル宿泊費(シングルルーム、税・サービス料含む)、一部食事代(日程記載分(機内食含む)、飲み物代は別)
- 運営業務費(プログラム企画・運営費、団長、通訳、添乗員同行費)
- 訪問先関係費、報告書作成費など事前研修費(資料費、会場費、講師費等)
- 現地陸上交通費(空港・ホテル・視察先への専用バス代、ガイド代、列車代、チップ代等)
- 手荷物運搬料金(移動時の運搬料、ホテルのポータレージ代等)
- 通訳料(技術フォーラム当日の逐次通訳)
- 技術論文配布テキスト費用(印刷代)
- 技術フォーラム会場・運営諸費用
- 現地招待者懇親会費用
- 帰国報告会費用

参加費に含まれないもの

- 各社技術フォーラム論文作成に伴う諸費用
- 渡航手続き諸費用(旅券取得費用、渡航手続き取扱い料金等)
- 個人的経費(ホテルにおける電話代、クリーニング代、チップ等)
- 集合時及び解散後の交通費
- 超過手荷物料金(エコノミークラスは20kg以上)
- 任意の海外旅行傷害保険
- 障害・疾病に関する医療費

取り消し料金

- ◎旅行上の諸費用(航空運賃、ホテル宿泊費、現地地上交通費等)
 - 実施日から起算し、さかのぼって30日以降3日前まで : 費用の20%
 - 実施日から起算し、さかのぼって2日前以降1日前まで : 費用の50%
 - 実施日当日の取り消しは、全額申し受けます。
- ◎運営業務費、共通経費等は別途申し受けますので予めご了承下さい。

『国際原子力発電技術移転機構』委員長・顧問・委員リスト

委員長	佐々木 宜彦	財団法人発電設備技術検査協会 理事長
顧問	野々内 隆	財団法人経済産業調査会 理事長
	逢坂 國一	社団法人日本電気技術者協会 会長
	荒井 利治	前社団法人日本原子力学会 シニアネットワーク 副会長
	宅間 正夫	社団法人日本原子力学会 シニアネットワーク 会長
委員	池本 一郎	財団法人電力中央研究所 特別顧問 博士(エネルギー科学)
(アイウエオ順)	石塚 昶雄	社団法人日本原子力産業協会 常務理事
	小川 順子	東京都市大学准教授/女性研究者支援室長 WIN-Japan 会長
	金氏 顯	社団法人日本原子力学会 シニアネットワーク 代表幹事
	河原 暲	元社団法人日本原子力学会 会長
	佐川 涉	社団法人日本技術士会 理事 技術士 工学博士
	関村 直人	東京大学大学院 工学系研究科 原子力国際専攻 教授 工学博士
	津山 雅樹	社団法人日本電機工業会 原子力部長
	当麻 純一	社団法人土木学会 原子力土木委員会 幹事長 (財団法人電力中央研究所 知的財産センター 所長 参事 工学博士)
	富岡 義博	電気事業連合会 原子力部長
	新田 隆司	日本原子力発電株式会社 常務取締役
	藤井 靖彦	東京工業大学名誉教授 工学博士
	宮野 廣	特定非営利活動法人日本保全学会 特別顧問 法政大学 客員教授
	諸葛 宗男	東京大学公共政策大学院 特任教授

総合事務局 : 株式会社アジア技術移転機構 (Asia Technology Transfer Organization, Inc. (ATTO))

〒107-0052 東京都港区赤坂2-2-19 アドレスビル5F TEL : 03-6229-1950 URL : <http://www.atto-asia.jp>

お申込みは別紙に必要事項をご記入の上、事務局までFAX(03-6229-1940)又は郵送でお送り下さい。